

「古稀集」～来し方思えば、持って瞑すべし（日本語③）

耳にし出してから 10 年以上経過しても、未だに違和感がある日本語が二つある。「～になります」と「大丈夫です」だ。

喫茶店やレストランで注文したコーヒーが届けられる時、「コーヒーになります」といった類の言葉が発せられる。「これからコーヒーになるなら、今は一体何？」と考えてしまうのは私だけではあるまい。

この言葉が使われる以前は、どのような言葉が使われていたのだろうか？「コーヒーをお持ちしました」、「コーヒーです」等だった。それが「コーヒーになります」に変化したのはなぜなのだろうか？

想像するに、この言葉は一種の丁寧語なのだろう。「～です」で済むのに「～になります」と言えば、より丁寧な表現にはなる。もっと丁寧に言えば、「コーヒーでございます。」だろうが、それほど大仰な日本語を使う場面は日常ではあまりない。それより簡便な言い方として「コーヒーになります」が定着したということだろうか？

「大丈夫です」は「～になる」よりは耳新しい。何かの商品の説明を店員さんから受けた後に「大丈夫ですか？」と言われると、「私の説明を理解できましたか？（あなたの頭は大丈夫ですか？）」という意味に聞こえてしまう場合もあるのではないだろうか？

病気をしていた方に「もう大丈夫ですか？」と尋ねるのは、その会話より以前に相手の方が病気だったという前提に立っている。つまり、「大丈夫ですか？」には、「悪いところはもう治りましたか？」というニュアンスが含まれていた場合が多かったはずだ。

現在使われている「大丈夫ですか？」は、そういう前提条件抜きに、単に「これでいいですか？」という意味で使っているのだろう。それはそれで理解できるが、従来使われている意味を踏まえずに使われると、とまどう人が出てきても不思議ではない。

こういった従来の伝統を踏まえない日本語の使い方は、私見によればテレビに出演しているタレントさんから始まるような気がする。深く考えもしないで使った、従来の方とは違う故新鮮に感じられる日本語を使う人が増え定着していくのだろう。

「言葉の歴史は、誤用の歴史である」と何かの本で読んだ気がする。以前にも述べたが、「遺言」は「ゆいごん」と読みなさいと、我々は教えられた。テストで「いごん」と書くと、当然誤答であった。現在では正解である。「世論」もまたしかりである。

言葉は変化していくものだから、大多数が使う日本語が正しいといえば正しいのだろう。しかし、私は「～になります」も「大丈夫です」も使わない。意地になっているわけではなく、自分の思うところを正確に言い表せないからだ。言葉は、言うまでもなく意思疎通の道具である。ならば、自分の意思を正確に表さない言葉を使うべきではない。

(2025.2.9)